



劔主神社の正面―宇陀市で



(住所) 宇陀市大宇陀宮奥1-1-6
 (祭神) 不詳
 (交通) 近鉄榛原駅から奈良交通バス「大宇陀」行きで終点へ。

南西へ徒歩約50分
 (拝観) 拝観自由
 (駐車場) なし
 (電話) なし

劔主神社 (宇陀市)

劔主神社は宇陀市大宇陀宮奥(元中宮奥)に鎮座しています。古くから「白石明神」と称し、ガラス原料の硅石からなる白石群をご神体としてお祭りしています。創立の年代や祭神はよくわかっていません。神社の石灯籠に刻まれた年が貞享3(1686)年である



ことや、倒木のおそれがあった境内の杉を切ると

400近い年輪があったことから江戸時代に造営されたと思われる。瑞垣に囲まれた本殿の後方及び西側に大きな白石が鎮座し、西側の前方の石は1段、後方の石は本殿の石とつながり、3段ほどの大きさの石が地

面から出ています。さらに本殿の西北約500段の山上には、白い巨岩がそびえ立っていて、その中の最も高い所にある巨石(幅が7〜8段、高さが5段ほど)が磐座(神が宿る石)として祭られ、奥宮と称されています。

神社の間の山の背は「明神の尾」と呼ばれていて、例祭にはここを通り、奥宮に参拝参籠(ある期間こもって祈願)することが慣例となっていました。しかし、近年は神社で神事が執り行われています。

なお宇陀市内には、下宮奥と平阪に同名の「劔主神社」があります。(奈良まほろばソムリエの会副理事長 松浦文子)

ガラス原料・硅石がご神体